

「宮澤・レーン事件」

80周年特別展 ～事件をめぐる“出会い”と“絆”をたどる～

2021年12月4日(土)～2022年1月30日(日) 10:00～17:00

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日休館)、2021年12月28日～2022年1月4日、1月15日、1月16日

北海道大学総合博物館 1階企画展示室

「ソシエテ・デュ・クール」

北大生宮澤弘幸は、北大予科英語教師レーン夫妻、ドイツ語教師H.ヘッカー、小樽高商フランス語教師太黒マチルド、イタリア人留学生F.マライーニ、中国人留学生らと共に、週に一度、外国語で議論や講義、談話をする集いを行っていました。集いの名は「ソシエテ・デュ・クール」(「心の会」の意)。戦時であっても敵国・同盟国関係なく国際的な友好を育む集いでした。しかし、それ故に特高(特別高等警察)などから動きをマークされることもありました。



問われた容疑は軍機保護法違反

1941年12月8日、宮澤弘幸とレーン夫妻は突然検挙されました。軍機保護法違反の容疑です。宮澤がレーン夫妻に語った旅行談の内容が軍事上の秘密にあたることされました。裁判の結果、三名には懲役15年、12年という重刑が科されました。しかし、軍機保護法は、帝国議会の審議の中で、軍事上の秘密と分かった上でその情報を他人に伝えた場合に罪を問うことを確認しており、宮澤とレーン夫妻への適用は、不合理な法運用であったといえます。

冤罪の告発

戦後、宮澤弘幸もレーン夫妻も亡くなった後、弁護士上田誠吉が三人の軍機保護法違反に疑問を呈しました。それをきっかけに、上田は宮澤の実妹秋間美江子と出会い、さらに事件の解明を進め、以降、「宮澤・レーン事件」は冤罪事件として知られるようになります。秋間を輪の中心として、宮澤弘幸の名誉回復をはかる運動、事件を掘り下げる調査、事件当時の大学の関わり方を検証する取り組みが広がり、現在に至っています。



【主催】北海道大学総合博物館、大学文書館

【協力】宮澤・レーン事件を考える会

【展示内容に関するお問い合わせ】北海道大学大学文書館(TEL 011-706-2395)



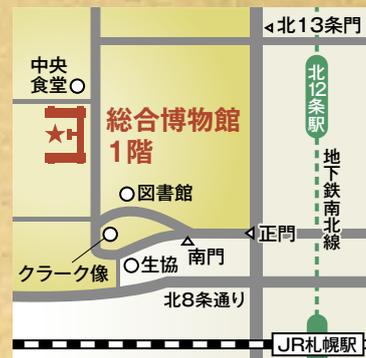
THE HOKKAIDO UNIVERSITY MUSEUM

北海道大学総合博物館

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
TEL 011-706-2658

交通案内

JR札幌北口より徒歩15分。博物館周辺に駐車場はありません。
バス・地下鉄等の公共交通機関のご利用をお願いいたします。



<https://www.museum.hokudai.ac.jp/>

会期中のイベント情報や、新型コロナウイルス感染症対策の詳細・最新情報につきましては、博物館ウェブサイトでご確認の上お出かけください。